

きずな

考える力を育む



非認知能力の一つ

「好奇心」

非認知能力とは

コミュニケーション能力や自尊心、社会性など数値で示すことが困難とされる力のこと



私には才能はない。あるのは情熱的な好奇心だけだ。

アルバート・アインシュタイン

皆さんは、お子さんがこれからの社会を生きていくうえで身につけてほしい力は何だと考えられますか？

現在の社会は、IT 技術をベースに大量の情報や知識が生み出され、それが幅広く発信される社会です。このような社会を生き抜くためには、目の前にあふれる大量の情報から意味や価値を見つけ出し、自分から新しい知識や技術を生み出していく「考える力」が求められています。

そこで、今回は「考える力」を引き出すために大切な「好奇心の芽」を育むために家庭でできることを紹介します。



日常的に家庭で取り組める

「好奇心」の育み方

お子さんの

「問い」(どうして?)(なぜ?)を大切に

「仮説」(答え)を出し合う



〈取り組み方〉

お子さんに「問い」がある場合はそれを大切に、持っていない場合は大人から「問い」を出し、それに対して自分なりの答えや推測を出し合います。

正解にたどり着くことが目的ではなく、言葉のやりとり じたいが目的となります。

出てきた答えに対して、「これはどういうことかな。」と問いかけ、一緒に情報を探したり調べたりすることでさらに話題を広げていくことができます。



〈具体例〉

Q:「夏はどうして暑いのかな?」

A:「太陽が出ている時間が長いからかな?」

お子さんなりの答えに耳を傾け、大人からも「もしかしてこういう理由もあるのかな。」などと投げかけ語り合います。



わからないことや気になることに自ら興味を持つことが、意味ある思考「考える力」につながります。

小さなことに疑問を持ち「なんでなんで?」とお子さんに質問された経験を皆さんはお持ちではないでしょうか。ただ、大人は忙しく、全ての「なんで?」にじっくり向き合う時間は取れないかもしれませんが、その中のいくつかに応えるだけでもお子さんの好奇心を育むことにつながります。

忙しい毎日ですが、好奇心の芽を育むチャンスであるお子さんの「なんでなんで?」に、大人も楽しみながら耳を傾けられるといいですね。